

はくぼく

No 1 8 3 2012 - 2 - 24(金)

発行責任者 三 浦 眞 吾

事務局 吉 田 朝 夫
釧路市美原3丁目57-4 ☎36-7426

二〇一二年宿泊交流会

少数参加の中で楽しい旅でした

【十八名の少ない参加の新年会でしたが、初参加二名で盛り上がる】

年二回の恒例行事である「十勝宿泊交流会」の一つの「新年交流会」が、去る二月十三日、十五日の二泊三日の日程で、十勝のホリデーイン・ホテル十勝川で開催しました。今回は、いつもと違って常連の不参加が目立ち、やっと十九名になったと思っていたら前日に入院する人などがあって、二〇名を切った十八名という参加人数となりました。しかし、年金者組合会員の初参加のご夫婦があり（一泊のみ）少数参加なりに楽しい旅行となったようです。その二泊三日の新年会の旅の様子を報告します。

【第一日目】スケジュール通りの時間に出発。バスには十四名が搭乗して走る。途中、大乗毛で佐々木さんを乗せ、白糠生協で買い物をして、音別駅で大黒さんを乗せて、一路目的地へ直行する。初参加の村越夫妻は、自分の自家用車で走る。白糠で奥さんがバスに乗り移り、みんなと合流する。定刻にホテル到着。それぞれの部屋に入りくつろぐ。パークゴルフ希望の人たち五、六人は雪上パークゴルフ場へと向かいました。残留組は、それぞれ部屋で休み入浴するなど、日ごろの働きから解放されてのんびり過ごしました。ただ麻雀を楽しみにしていた人たちは面子が一人足りず、卓を囲めず手持ち無沙汰の時間を過ごしたようです。その内に「ふまねつ」とを、佐々木孝雄さんの指導で行い、体をほぐすなどして午後のはんびりし、六時からは懇親会の宴会が始まる。村越夫妻が明日帰るので、ステーション前に並び記念写真を撮りました。その後は、桑原さんのマジックショーがあり、荒木さん提案のじゃかいかもカールングゲームに興ずる。ゴロゴロして思いどおりに転ばず、ほとんど得点にならずみんながてこずる。その後は、お互いのノドを聞かせるカラオケに入り、それぞれの持ち歌を披露する。

【第二日目】皆さん後期高齢者の年齢に達し、かつての酒豪も年と共に酒量が減り、飲めなくなったよう、目覚めがよく、朝食は健やかな顔で頂く。二日目のメインは「学習会」です。今回は、今問題になっている「T P P 問題」を池田さんを講師に学ぶ予定でしたが、池田さんの提案で「一人の話を聞いて学ぶ」と言うより、お互いに思っている疑問を出し合って、語り合うのも学習会として必要ではないか」との意見から、前段に「韓米FTAは韓国民衆の主権と生活を脅かす」とのプリント提言のあと、それぞれの意見や疑問を出し合いながら話し合いました。T P P で被害を受ける農業問題だけでなく、医療の問題などにも触れながら、熱心に語り合いました。その後、ふまねつと運動について、指導資格を持つ有田さんの指導で、マス目のふまねつとを、杵を踏まずに歩く運動をしました。運動神経の衰えを身にしみて感じる。午後からパークゴルフ組と残留組に分かれて時を過ごす。夜は再び食事と宴会に入りゲームはビンゴとジャガイモパークゴルフをやったり、カラオケに興じ、旅行最後の夜の宴を存分に満喫しました。最後に「沖繩を返せ」を声高らかに会場に響かせて終了しました。

【第三日目】三日目は、釧路に帰るだけの日程ですが、昨日手にした景品の商品券（ホテル用）で売店のお土産を買うなどしながら、九時三〇分定刻にホテルを出発。釧路は晴れの天気予報でしたが、次第に小雪が舞い散り、だんだん激しく降り続いていきましたが、音別や釧路に入るに從って晴れ上がり、路面も解ける暖かさに変わって来ました。車中で、二日間の感想を語り合い、次の旅行を予約する発言や、今後への貴重な提案もあり、心に残る旅でした。

音別で大黒さんを降ろし、大乗毛で佐々木さんを、鳥取で有田さんを降ろして、無事協立病院前に到着。列車で帰る人たちを駅までバスで送り解散し、新年交流会が終了しました。

【参加者名】・三浦眞吾さん・大西勝雄さん・千葉義夫さん・桑原 昭さん・有田 誠さん

・福浦 寛さん・武山雄治さん・和田正文さん・羽田光雄さん・吉田朝夫さん
・村越幸康さん・池田幸男さん・佐々木孝夫さん・大黒八千代さん（十八名）
・樹下和子さん・武山悦子さん・荒木千枝子さん・村越節子さん

退職組合員激励の集いの案内

一年の時の流れは早いもので、退職される組合員の季節がやって来ました。その激励会が左記の日程で開催されます。昨年は「はくぼく」発行日が開催日で、大変ご迷惑をかけたしまいました。今回は、一カ月後ですので、余裕があると思っておりますので、参加される方は、直接組合事務所（0154-1511-0476）に申し込み下さい。

- ・期日 二〇一二年三月二十六日（月）午後六時
- ・場所 星が浦教育会館
- ・会費 三〇〇〇円

退職組合員の氏名は、上の欄に掲載しましたので、ご覧下さい。

一〇一一年度

退職組合員名

高倉博子先生

【退職校 標茶町立磯分内小学校】

永井清彦先生

【退職校 標茶町立磯分内小学校】

中嶋知津子先生

【退職校 標茶町立阿藤内小学校】

矢作京子先生

【退職校 釧路市立城山小学校】

加藤育伸先生

【退職校 標茶町立虹別中学校】

高久峯生先生

【退職校 釧路市立音別中学校】

以上六名の先生たちです。年々私たちとの年齢差が広がってきて、名前と顔が一致せず、知らない先生連が多くなってきました。「はくぼく」の前号でもお知らせしたように、退職教加入の期間になつていきますので、加入お誘いの封書を届けますが、皆さんからも是非声をかけて加入を呼びかけて下さい。去年の退職組合員は七名でしたが、二名しか加入しませんでした。あの人は当然加入するだろうと期待していたのに、全く反応なしで期待が外れました。ちなみに、昨年の退職者は、次の方々です。（未加入者のみ）

- ・十枝内 則 夫さん
- ・藪 本 隆 子さん
- ・服 部 裕 子さん
- ・高 倉 徹 夫さん
- ・長谷川 直 良さん

是非皆さんから、一声呼びかけて会員の拡大にご協力下さい。

新年宿泊交流に参加して 村越節子さん

新年交流会感想文

今回の新年宿泊交流会に初参加の村越さん(年金者組合)から感想文が寄せられましたのでご紹介します。初めて参加して大変喜んでいただきました。村越夫妻は20年余国鉄闘争団として闘ってきた方たちです。今回の参加を前々から期待していたようで、喜んでいただき嬉しく思います。

今年こそ参加するぞ!と、毎年楽しみにしていたのですが、国鉄闘争の家族上京行動や、昨年は、釧路町議選挙と重なるなどで断念! 昨年、「ひまわり」の運転手を退職した夫と初めて参加することができました。バスの中は、まるで修学旅行みたい……十勝川温泉につくや否や、何と「雪中パークゴルフ」へ行く人、夕食交流までの休息時間に、佐々木さんの講師で一時間程、ストレッチ体操で汗を流し、また、夕食交流会では、有田先生から気になっていた政務調査費裁判の報告も聞くことができました。御馳走を食べながら、飲みながら、まずはマジックショーに、ゲーム大会、カラオケと宴もたけなわ、すっかり雰囲気呑まれ、人前で歌ったことのない私も夫も、アルコールが入り、マイクをもって歌う始末! 例年より少ない人数とはいえ、約20名。六〇代、八〇代のこのパワーは一体どこからくるのか、只々驚くばかりでした。(あゝこの力が世の中を変えて来たのだ、きっと……と感じる)今回参加の五人官女で部屋に戻ってから、夢ごちでゆかたを着て部屋に戻り、気が付くと着ていたはずの服はそっくりお風呂に忘れてくるという始末!

二日目、朝の学習会は、T P P問題、池田先生中心に活発な討論にうなづくばかり……(うゝん、遊びだけではないんだ、さすがだ……)と資料を大切に持ち帰りました。学習の後は、みんな「ふまねっ」とに挑戦する姿は真剣そのものでした。屋敷の具沢山のうどんをよばれ、残念ながら私たちは、仕事の都合で一泊の予定でしたので帰ることになりました。入会して間もない私ですが、ますます高齢者が多くなる中、安心して暮らせる世の中を微力ですが、皆さんと一緒に力を尽くしていきたい…… 学びの多い宿泊交流会に、次回仲間をふやし、また参加したいと思えます。

・青年・若者の貧困 釧路市における取り組み「自立支援」子どもの貧困への取り組み

長期的な傾向を見ても、釧路の高卒後の状況は、就職者数の減少・無職者の増加、進学率の伸び悩みなど、九〇年代以降、構造的な困難を抱えている。他地域に比しての大学進学率の低さ(〇8年度で全国52.8%北海道で40.4%に対し、釧路市は33.4%)や専門学校進学率の頭打ち傾向に端的に示されているように、進学についても、さまざまな「阻害要因(経済的・物理的・地理的)があることが予想される。

卒業生の地元志向はよいが、管内での求人状況の悪化により、管外・道外への就職を余儀なくされている卒業生は少なくない。道外就職の場合も、かつてのように東京など大都市圏や、関東・東海など一定地域への就職は減少し、全国的な分散傾向が見られる。実際、請負・人材派遣等への「就職」によって道外に転出した若者達の中には、2008年末の「派遣切り」で、やむなく釧路に戻ってきた、あるいは戻れないまま働いた地域で仕事も住むところもない状態でほうり出され、かろうじて派遣村や各自自治体などに身を寄せて冬を過ごしたというケースも少なくないと言われています。

・釧路市における取り組み「自立支援」子どもの貧困への取り組み
このような状況を打開するため、釧路市では、2004年度から「生活保護受給母子世帯自立支援モデル事業」の取り組みをはじめ、06年度からは、高齢者をのぞいたすべての生活保護受給世帯を対象とした「釧路市生活保護自立支援プログラム」の取り組みをすすめている。

障害をもつ人々を対象とした作業所や授産施設、グループホーム、病院など、地域さまざまに機関・団体の協力を得ながらの「当事者の自尊心と目線」を尊重した取り組みは、さまざまな紆余曲折を含みながら、受給当事者の意識を新たな人間関係の形成や社会参加へと促す貴重な機会となっており、全国的にも注目を集めている。

一連の取り組みの中で、社会的に不利な立場にある様々な子どもが、「不登校、ひきこもり、高校中退、そもそも高校へ行かない」等の諸困難に直面していること、それらが少なからず「世帯の困難」へと折り重なっているという現状に直面した福祉事務所は、2008年から、地域のN P Oと共同で「高校進学希望者学習支援プログラム」(後に子どもたちの発案で「実家のような心地よい場所、ずっとスクラムを組んでいこう」という願いを込めて「Zと!Scrum」と名付けられ、現在に至っている)を立ち上げ、高校受験を控えた中学生三年生の子どもたちの学習をサポートする事業に取り組み始めている。

「Zと!Scrum」には、N P Oのスタッフ、生活福祉事務所職員をはじめ、地元の大学生、スクラムの「卒業生」である高校生、大学教員、社会教育施設職、マスコミ関係者、さらに自身も生活保護を受給中で「自立支援プログラム」の一環として勉強会にかかわっている五〇代六〇代の男性等、様々な立場の人たちがかわわっているが、そのユニ-

計報

・藤原忠夫氏逝去

去る十九日、古田さんからの電話で、藤原忠夫さんが亡くなったと知らされて驚きました。同じ美原に住んでいながら知らずにいたこと悔いています。ガンを患って一年の間、労災病院に入院していたとのことでした。

先日(二十二日)の通夜に参列し、ご焼香して参りました。行年七〇歳とのことでしたが、まさかこんなに早く亡くなるとは思っていませんでしたので、実に残念でなりません。私事ながら、藤原さんとは、標茶町での在職中からの知り合で、又、全生研の仲間として一緒に活動したものでした。標茶町の学校を二校ほど勤務してから、釧路市内の城山小や光陽小・愛国小などに勤務し、その間に全教組の書記長をするなど、教職員組合の活動家として活躍しました。

通夜の折、隣に同席した及川さんの話では、在職中から体調が(お腹の具合)すぐれないとよく言っていたとのことでした。まさか一年も入院されていたとは知らずにいたことが残念でなりません。ご冥福をお祈り致します。

※ 深見さんから弔辞文を頂きましたが、次号に記載します。

政務調査費問題市民集会終わる

【二月二十二日 まなほつとで開催しました】
去る二月二十二日、政務調査費問題市民集会を、まなほつと604号室で開催しました。三十二名の参加者がありました。最初に、代表の三浦さんのあいさつがあり、四年猶予の裁判にご支援下さった市民の皆さんへのお礼を述べ、これまでの取り組みの経過を有田さんが報告しました。また、札幌での公判には、元釧路在住の仲間の傍聴で、原告として大変力強かった等の報告を八木さんが話し、その後、今弁護士との裁判についてお話があって、一時間三〇分ほど終了しました。

詳しい報告については、紙面の都合上、お知らせできませんので、次号の「はくぼく」に掲載しますので後了承下さい。

クなどところは、それが単なる学習支援にとどまらず、子どもたちと大人たちとの相互の働きかけと関係形成、それを通した子どもたち自身の「居場所づくり」さらには、様々な社会的不利を、育ちの中で抱え込まざるを得なかった若者たちの移行過程を支える、社会的ネットワークの豊富化など、重層的な取り組みとなっていると言うことです。(以下 省略)